

川崎市視覚障害者情報文化センター 平成29年度事業計画

1. はじめに

川崎市視覚障害者情報文化センターは、視覚の不自由さを持つ人に対し情報を提供し、日常生活及び社会生活を営むための必要な訓練その他の支援を行う。また活動の場を提供することにより、自立と社会参加を促進し福祉の増進を図ることを目的として設置された施設である。視覚障害者が自由に外出し、自由に情報を入手し、自由に情報を発信できるようになるため、川崎市域にある唯一のサポートセンターとして責務を担っていく。

2. 事業の経過

昭和43年、旧川崎市社会福祉会館において、川崎市点訳奉仕会、朗読奉仕会「水車の会」、青年赤十字奉仕団川崎分団の先進的な活動を母体に川崎市盲人図書館が生まれた。

昭和49年川崎市福祉センター建設にあたり、川崎市盲人図書館と名称を改め、公的な責任として事業の一層の展開を図るべく、現在地に開設された。

開設当初は、盲人図書館係5名、盲人指導係5名の職員体制で出発した。この当時、視覚障害者への指導事業は全国的にも珍しく、これまでのボランティア活動の実績があったからこそ、その重要性が認識され、公的な責任として実現したものである。視覚障害者が地域で市民として生活できるように支援することは、サービスではなく権利の実現のための第一歩である。

このため、川崎市盲人図書館は既成概念にとらわれることなく、当初より一人ひとりのニーズに応じた支援を事業の基本とし、所蔵する図書を貸し出すだけでなく、利用者からの貸出し希望には必ず応えることを原則として、貸出し中のものには「予約」が可能のように貸出し方法の改善を行った。

これはのちに「点字図書館式ブラウン方式」として全国の点字図書館に紹介されることとなった。また、どこの図書館にも所蔵していない図書は製作することとし、点訳者、音訳者の養成も、リクエストに応えるための事業と位置付け、英語、楽譜、パソコン等の専門的な資料製作にも積極的に取り組んだ。さらに、公的な責任を明らかにするためにもボランティア活動ではなく製作委託として、資料製作に対する対価を支払うことを原則としてきた。今では事業予算の半分以上を占めるまでになっている。図書館間での相互貸借システムの制度化、総合目録事業の推進なども、全国的な制度化を前に、県内での各種養成講座の共通カリキュラムの作成、目録規則の制定、及び県内総合目録の作成と配布を積極的に実践してきた。

訓練事業は全国的にも珍しく、市のレベルでの実施は川崎市が唯一であった。

中途視覚障害者への指導・訓練こそ、個別ニーズに応じる必要があり、まだパソコンが普及していなかった昭和63年には既に指導科目として実施してきた結果、今日までの実績がある。

平成26年4月からはこの事業を社会福祉法人日本点字図書館が指定管理者として

引継ぎ、さらなる事業発展を担っていく。

3. 平成 29 年度事業の取り組みについて

センター事業は今年度も川崎市内の視覚障害者の方たちへ、積極的な情報提供と利用者の QOL(生活の質)の向上支援を広げていくことを進めて行く。「映像のまち・かわさき」の事業として、視覚に障害のある方々に映画を楽しんでいただく音声ガイドとシネマ・デイジーの製作も積極的に取組んでいく。毎月開催している音声ガイド付き映画体験会や「れきおんクラブ」、春と冬のコンサートなど利用者の人たちや地域の人たちの参加を促していく。各イベント開催などにボランティアの協力を得られるように進めていく。

本年 6 月に開催する、第 26 回 視覚障害リハビリテーション研究発表大会 in 川崎&鶴見」を関連機関と連携し円滑かつ確実に実施する。

(1) 閲覧・貸出

約 700 人(個人・団体)の利用登録者に対し、点字図書は年間 240 タイトル、録音図書は年間 11,825 タイトルの提供を目指す。また、点字雑誌は年間 250 タイトル、録音雑誌は年間 4,570 タイトル提供する。ダウンロードサービス件数およびシネマ・デイジーも含めて 総貸出数は 18,795 件提供する。

(2) 資料製作

利用者のニーズを尊重した図書選定を行い、点字図書は年間 46 タイトル、録音図書は年間 100 タイトルの製作をする。また、テキストデイジー図書 10 タイトルの製作を行う。

「映像のまち・かわさき」の事業として、視覚に障害のある方々に映画を楽しんでいただく音声ガイドとシネマ・デイジーを 20 タイトル製作する。

(3) 点訳者・音訳者・音声ガイド製作者等の養成

本年は点訳者養成講座を実施する。活動中の点訳者・音訳者・校正者を対象としたスキルアップ研修会を開催する。

「映画の音声ガイド製作ボランティア養成・スキルアップ講座」を開催する。

(4) 訓練事業の取り組み

平成 28 年度からの訓練継続者を含め、延べ 70 名に歩行、生活、コミュニケーションなどの各種訓練を行う。それ以外に、訪問指導や来所指導といった短期間での訓練指導を延べ 100 回実施する。

視覚障害者のための日常生活用具と便利グッズの主なもの、最新のものなどを展示し、斡旋販売を行う。訓練と連携を密にし、訓練生にこれらの用具を紹介し、使用してもらうことで QOL の向上を図っていく。また、補装具・日常生活用具の制度や申請の方法を積極的に周知していく。合わせて図書館利用に繋げていくことを行なう。

(5) ボランティアとの協力、連携強化

ボランティアとの連携を密にして、図書製作・各種イベント等で協働していく。

(6) 啓発普及について

① 福祉事務所での手帳交付時に事業案内ができる事業案内パンフレットを、各福祉事務所、生活支援センター等、関連機関・団体へ配布を行う。

- ② 事業報告会を開催し、図書館事業・視覚障害者訓練事業の認知を深める。
 - ③ 市内眼科医との連携を図り、中途視覚障害者に対する情報提供を図る。
 - ④ 地域保健師、民生委員の協力を得て、在宅視覚障害者の発掘、情報提供を図る。
 - ⑤ センターまで足を運ぶことが難しい利用者に対し、川崎市各区においてセンターを知っていただくための事業体験会を開催する。
 - ⑥ 最新の情報をいち早くメールマガジンで伝えるとともに「アイ eye センターだより」を発行し広報活動に積極的に取り組んでいく。
- (7) 文化的活動について
音声ガイド付き映画体験会やコンサートなどイベントを開催する。本年度はあたらしく、ボランティア運営主体でチャレンジ・ヨガ教室を隔月で開催する。
- (8) 防災・減災対策の推進
発災時にセンター内にいる利用者、支援者、職員の安全、安心な施設を確保する。災害への準備、心構えなど、視覚障害者が事前に準備しておくべきことを伝えると共に、視覚障害者向けの防災グッズなども紹介する防災対策セミナーを開催する。
- (9) 第26回視覚障害リハビリテーション研究発表大会 in 川崎&鶴見の開催に取り組む。

参 考

(1) 閲覧・貸出

平成29年度(計画)

① 利用登録者数		430 名
	(新規登録者数)	30 名
	(点字使用者数)	120 名
② 利用登録団体		270 施設
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)		2,700 タイトル
	(冊数)	9,900 冊
蔵書数の変化 (新収書)		150 タイトル
		500 冊
貸出数 点字図書		240 タイトル
		610 冊
	(内 他館借受)	(20 タイトル)
		(80 冊)
	(点字雑誌)	250 タイトル
④ 録音図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)		4,800 タイトル
	(枚数)	4,800 枚
蔵書数の変化 (新収書)		200 タイトル
		200 枚
貸出数		
(ア) カセットテープ		30 タイトル

	90 巻
(イ) CD図書 (内 他館借受)	11,800 タイトル (10,000 タイトル)
(ウ) カセットテープ雑誌	70 タイトル
(エ) CD雑誌	4,500 タイトル
(オ) シネマデイジー・音声ガイド	260 タイトル
デイジー図書コンテンツダウンロード提供	
(ア) SDカード	1,400 タイトル
(イ) CFカード	240 タイトル
(ウ) CD	10 タイトル
⑤レファレンスサービス情報提供件数	80 件
(2) 資料製作	
①点字図書の製作数	
(ア) 委託製作数	15 タイトル 70 冊
(イ) 委託外製作数	30 タイトル 130 冊
(エ) プライベートサービス	39 タイトル
②録音図書の製作数	
(ア) 委託製作数	朗読 50 タイトル デイジー編集 100 タイトル
(イ) 委託外製作数	50 タイトル
(ウ) プライベートサービス	10 タイトル
③テキストデイジー図書の製作数	10 タイトル
④シネマ・デイジー・音声ガイドの製作数	
(ア) 委託製作数	15 タイトル
(イ) 委託外製作数	5 タイトル
(3) 点訳ボランティア等の養成	
① 点訳ボランティア養成講座 開催回数	18 回
① 点訳ボランティアスキルアップ研修会 開催回数	2 回
② 音訳ボランティアスキルアップ研修会 開催回数	2 回
③ 音声ガイド養成講座 開催回数	8 回

(4) 訓練事業の取り組み

①訓練者数	訓練者実数	70名
	(新規訓練者数)	30名
	内訳(複数提供あり、契約を結ばない短期訓練も含む)	
	生活訓練	6名
	歩行訓練	40名
	パソコン訓練	10名
	点字訓練	5名
	ハンドライティング	1名
②相談者数		100名
③用具の展示と販売紹介	展示点数	400点
	販売紹介点数	1,400点

(5) 啓発普及

①事業報告会等の開催

- 7月 視覚障害者訓練事業説明会
- 8月 出前センター

②体験会の開催

- 8月 プレクストーク操作体験会
- 10月 マルチメディア講習会
- 11月 iPad 操作体験会

③訓練生交流会

開催数 10回

④ イベントの開催

- 6月 視覚障害リハビリテーション研究大会開催、読書会
- 12月 読書会、「かわさき冬のコンサート」
- 1月 視覚障害者防災イベント
- 2月 センターまつり
- 音声ガイド付き体験上映会 開催数 12回
- 歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」 開催数 4回
- チャレンジ・ヨガ教室 開催数 6回